様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24　年 5 月 15 日現在

機関番号：32665
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2009～　2011
課題番号：21520205
研究課題名（和文）　1950－60 年代における文化産業としての文学の発展過程に関する総合的研究
研究課題名（英文）　A comprehensive study on the developmental process of literature as the cultural industry in the 1950s and 60s
研究代表者
山岸　郁子（YAMAGISHI　IKUKO　）
日本大学・経済学部・准教授
研究者番号：90256785

研究成果の概要（和文）：「文化資本」として〈作家〉や〈文学作品〉をとらえ直し、1950－60 年における文学市場の問題について、調査を行い、その実態を明らかにした。それは文学を取り囲む状況のなかで発信された批評の言説がどのように編成され、どのような現象を生じさせたのかについて考察するのみならず、文学者の生活のありようを指標として戦後日本社会や文化の変化のある局面を明らかにすることとなった。高度経済成長の中において文学が消費の対象になり、これまでにない規模で発展する中で「文学」や「文学者」果たした役割について分析・検討を行った。

研究成果の概要（英文）：This study reconsidered 〈writers〉 and 〈literary works〉 as ‘cultural resources’, investigated the problems in the literature market in the 1950s and 60s, and revealed its actual situation. It not only considered how critical discourses in the literary world have been formed and what phenomena they have caused, but also revealed some aspects of changes in post-war Japanese society and culture through observing writers’ way of life. Given that ‘general public’ consumed a lot of literature as commercial products in the age of rapid economic growth, it is assumed that the whole literature including all genres became the product for mass consumption. This study analyzed and considered the role which literature played in the economic growth on an unprecedented scale.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総　計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・日本文学
キーワード：日本近代文学・文学論・文化研究

１．研究開始当初の背景

第二次世界大戦後の日本文学に関する研究は、1940 年代という戦中・戦後を痛感する視点からの分析、占領期に注目した研究、60 年代に軸線をおいた批評などがすでに一定の成果をあげていた。これまであまり注目されてこなかった 50 年代についても、「1950 年前後の文化状況」についての特集が組まれたり、「〈戦後〉論の現在」というテーマについての研究が重ねられてきている。しかし 1950-60 年の重要な諸問題については見過ごされてきたことが多い。第一次文学大衆化と第二次文学大衆化といった継続的な問題意識のもと、研究調査をおこない、空白化していた 1950-60 年を埋めるべく再検討を行う必要があった。

２．　研究の目的

「文化資産」として〈作家〉や〈文学作品〉をとらえ直し、1950 - 60 年における文学市場の問題について、調査を行い、その実態を明らかにすることを目的とした。それは文学場のなかで発信された批評の言説がどのように編成され、どのような現象を生じさせたのかについて考察するのみならず、文学者の生活のありようを指標として戦後日本社会や文化の変化のある局面を明らかにすることである。

３．研究の方法

初年度に広く文献の調査を行い、データベースを構築しつつ地方（神奈川・静岡）の文化事業について調査を行った。それをベースにして 2 年目以降に金沢・長野といった文学者と関わりの深い地域について調査をし、これらの調査に基づいて、昭和初年代との比較、言説の整理・分析を行い 1950-60 年にみられる文学現象について多面的に検証した。

４．研究成果

(1) 「全集」・「文芸雑誌」・「単行本」をはじめ「中間雑誌」・「週刊誌」・「婦人雑誌」・「新聞」という活字メディア、写真・映像メディアについて調査を行い、文学ブームの実態を明らかにした。

(2) 地方における文学資産（文学碑・文学館・文学散歩のコース設定・土産物などの文学関連商品）のありようについて調査を行った。

(3) 文化人化した作家のライフスタイルがそれ以前と比べてどのように変化したのか、本人の言説（回想記）あるいは周辺（交友関係や家族）から立体的に文学空間再現し、その意味について考察した。

以上のような調査をふまえての成果として文学をめぐる「文化資本」がどのように発見され、運用されているのか実態をある程度明らかにすることができた。戦後日本では、全国総合開発計画で打ち出された「均衡ある国土の発展」という理念に象徴されるように、様々な政策分野において中央集権型の計画策定にもとづく経済発展に向けた産業政策が行われてきたが、開発を受容する地域の側には固有の歴史・風土・文化・民俗性があり、画一的な開発政策と地域固有の事情の狭間

で、さまざまな問題課題が生じてきたといえる。その中で「文学」・「文学者」がどのような役割をはたしてきたのか総合的に検討することができた。その成果は各々研究論文として発表している。

今後は文化資本としての「作家」ならびに「作品」が再発見される社会的な背景（事情）について継続して調査・分析を行いたい。具体的には地方の文学館について調査を行い、「文学」という制度にみられる近代日本文学史が教育やアカデミズムばかりではなく風土認識とどう関わるのかを明らかにしたい。特に作家の役割とその生活についてメディアと日記を比較しながら実態をつかむ。これらの調査に基づいて、作家の生活と言説の整理・分析を行い 1950-60 年にみられる文学現象について文化資本化される作家（川端康成など）の多面的な検証を行う。また文化資本となった作家を地方がどのように顕彰し、展示のみならず観光資源としてもどのように利用していたのかについて行政資料にも目を配りながら明らかにする。

高度成長期とそれ以降の「文学」と「経済」との関係について明確化しようとすることが本研究の最終的な目標である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 12 件）

①「〈現代社会〉を描くということ一昭和一二年の『風俗小説』とマルクス主義-」
山本芳明,「国語と国文学」, 第 88 巻第 7 号, 査読有, 1ー18（2011）

②「文学の経済学-昭和十年代を読む」
山本芳明,「人文」, 第 9 号, 査読有. 143-164（2011）

③「〈私小説〉言説に関する覚書-〈文学史〉・マルクス主義・小林秀雄-」
山本芳明,「学習院大学文学部研究年報」, 第 57 輯, 査読無, 79-100,（2011）

④「〈いま〉を考えることとは」文学館の〈いま〉を考える」
山岸郁子,「昭和文学研究」, 第 60 集, 査読有, 110-112（2010）

⑤火野葦平の公職追放仮指定に対する「異議申立書」と「証言」
山岸郁子,「語文」, 第百三十六輯, 査読有, 166-181（2010）

⑥「それは『純粋小説』から始まった-『純文学』大衆化運動の軌跡」
山本芳明,「学習院大学文学部研究年報」, 第 56 輯, 査読無, 41-73（2010）

⑦「典拠の志向性――一九二三年、横光利一の文壇登場期を中心に」
十重田裕一,「国語と国文学」, 第 87 巻第 5 号, 査読有, 93-105（2010）

⑧「分裂した本文の軌跡 」
十重田裕一,「文学」, 第 9 巻 10 号, 査読無, 159-172 (2010)

⑨「「呪はれた戯曲」と虚構の現実化をめぐる二つの物語――谷崎潤一郎の小説表現」
金子明雄,『語文』, 第 136 輯, 査読有, 15-29 (2010)

⑩「武田麟太郎「暴力」の方法」
山岸郁子,「日本文学」, 11 月号, 査読有, 57-66 (2009)

⑪「全集」出版のポリティクス
山岸郁子,「日本近代文学」, 第 80 集, 査読有, 198-201 (2009)

⑫「小津安二郎与女演員們―杉村春子篇」
中山昭彦,『中日影像文化的地平線』所収, 中国電影出版社, 査読無, 44-52 (2009)

〔図書〕(計 1 件)
①『「名作」はつくられる　川端康成とその作品』
十重田裕一, 総174頁, ＮＨＫ出版 (2009)

６．研究組織
(1)研究代表者
山岸　郁子 (YAMAGISHI　IKUKO)
日本大学・経済学部・准教授
研究者番号：90256785

(2)研究分担者
山本　芳明 (YAMAMOTO YOSHIAKI)
学習院大学・文学部・教授
研究者番号：90191460

(3)連携研究者
十重田　裕一 (TOEDA HIROKAZU)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：40237053

金子　明雄　(KANEKO AKIO)
日本大学・文理学部・教授
研究者番号：70233872

中山　昭彦　(NAKAYAMA　AKIHIKO)
学習院大学・文学部・教授
研究者番号：80261254